YAMAHA

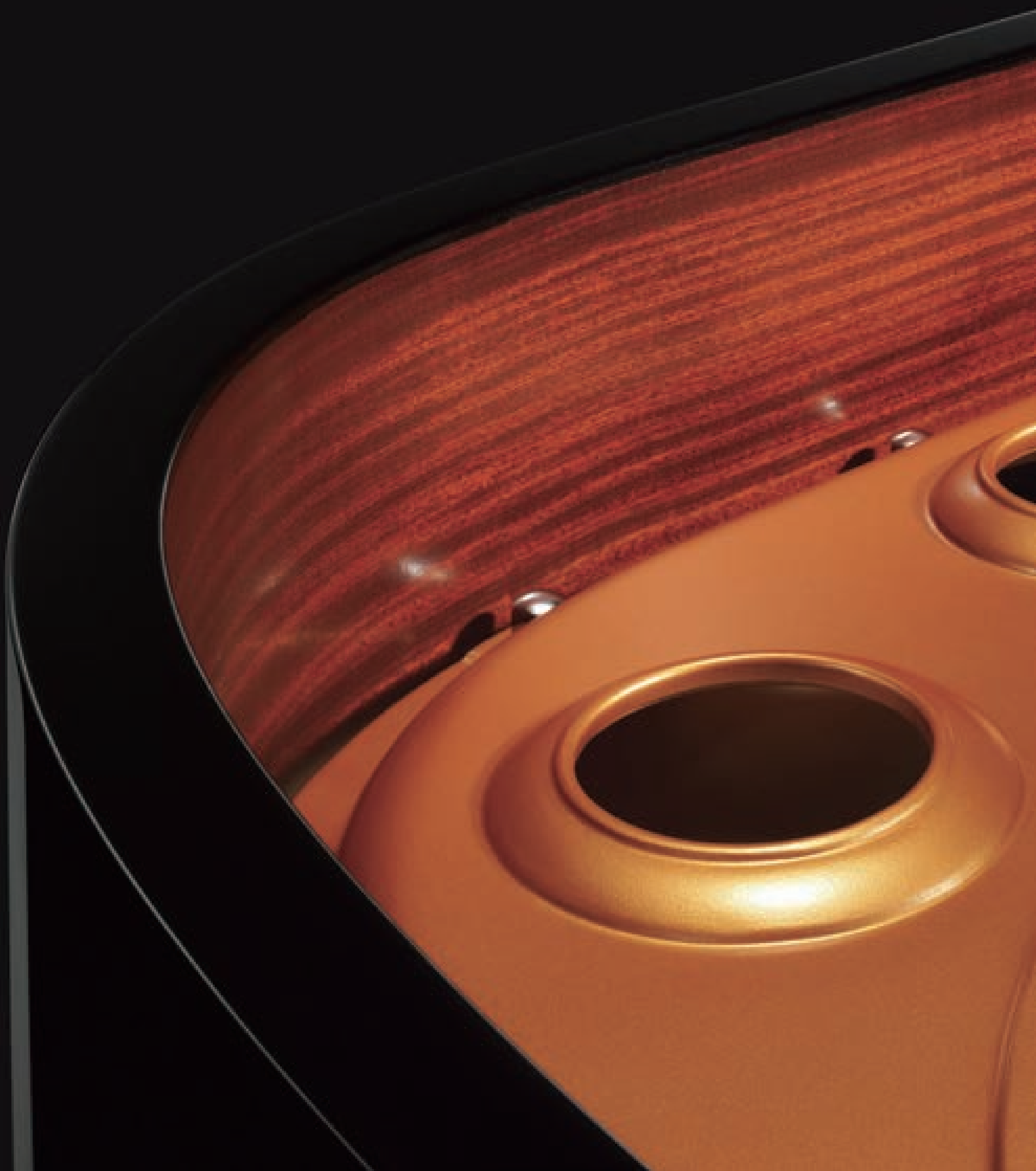
ヤマハ株式会社　会社案内 2014

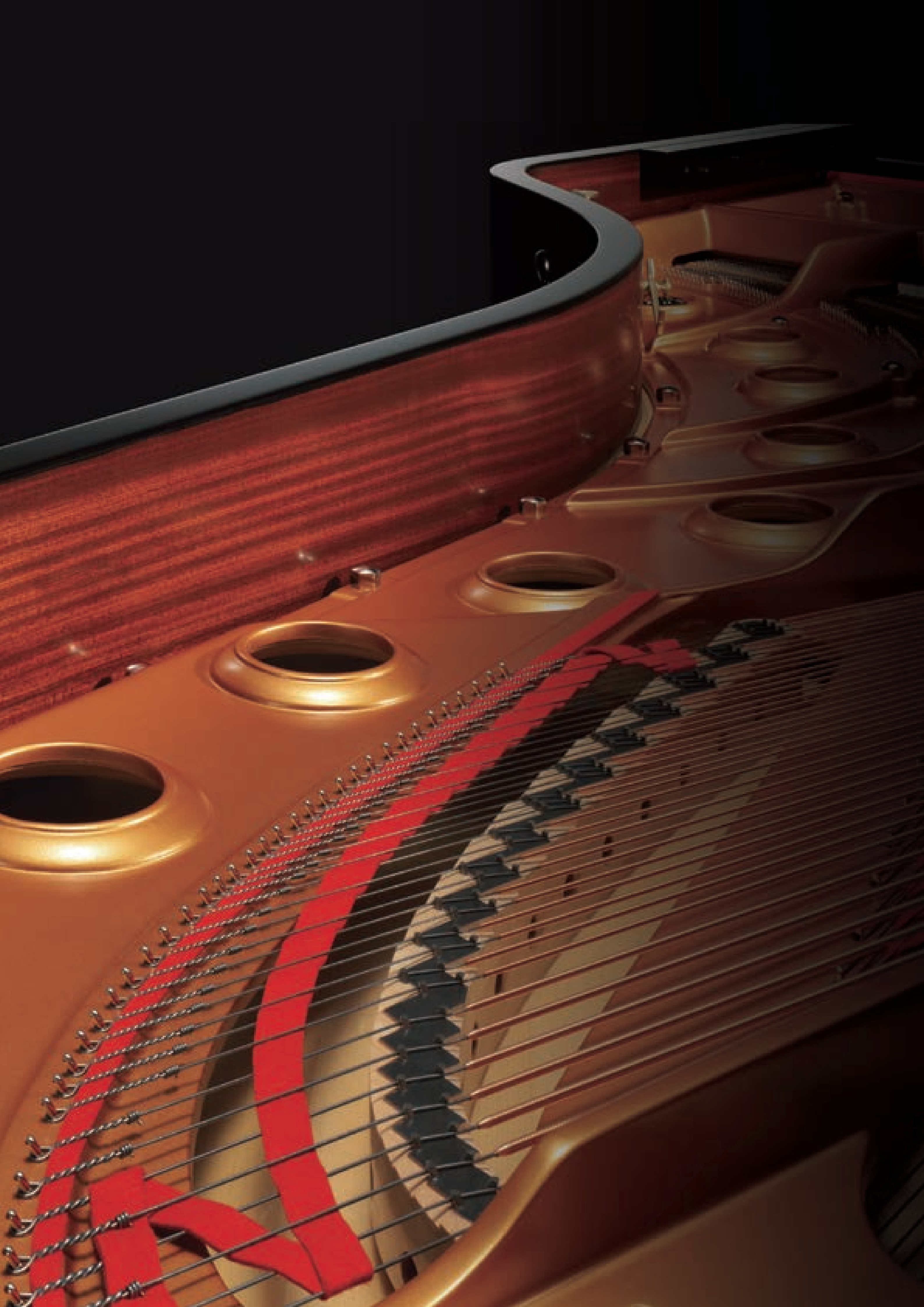
感動を・ともに・創る

ヤマハグループは

音・音楽を原点に培った技術と感性で

新たな感動と豊かな文化を世界中の人々とともに創りつづけます。

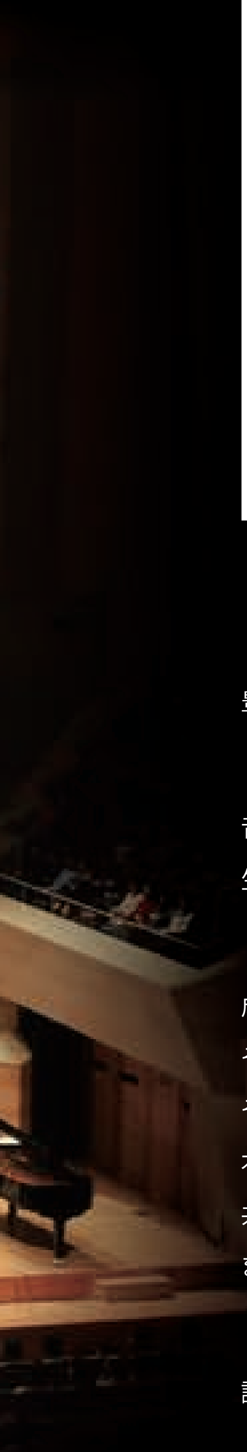






演奏：ヤマハ吹奏楽団
撮影協力：サントリーホール

ごあいさつ



お客様一人ひとりと真摯に向き合い
感動を生む新たな価値を
ご提案していきます。



ヤマハグループは「感動を・ともに・創る」を企業目的として掲げ、事業活動を通じて人の心の豊かさに貢献することを目指しています。

当社は創業以来125年以上にわたり、「音・音楽」を中心とした多様な製品・サービスをご提供し、音楽・教育・文化に関連する幅広いニーズにお応えすることにより、さまざまな場面で“感動”を生み出すお手伝いをしてまいりました。

ヤマハの使命は、楽器業界のリーディングカンパニーとして培った専門性を追求し、持続的な成長を実現するとともに、感動や満足感を生み出す新しい価値をお届けすることだと考えています。そのために、私たちはお客様一人ひとりと真摯に向き合い、お客様の目線を大切にしています。そして、ヤマハで働く私たち自身が心を躍らせ、その情熱を製品やサービスに込めることによって、本当に人の心に響くものを生み出していきたいと思います。ヤマハで働く者すべてがその思いを共有し、お客様の満足のためにベクトルを合わせ、真に求められる製品・サービスを提供してまいります。

これからも皆様の期待にお応えし、末永くお付き合いいただける会社であり続けられるよう誠心誠意努力してまいりますので、何卒ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2014年7月

ヤマハ株式会社
代表取締役社長　中田卓也



ヤマハの歴史は、1887年に創業者である山葉寅楠が1台の壊れたオルガンを修理したことに始まります。その後、リードオルガンを製作して以来125年以上にわたって、楽器を中心とするさまざまな製品・サービスを提供し続け、世界中で広く親しまれるブランドとなりました。

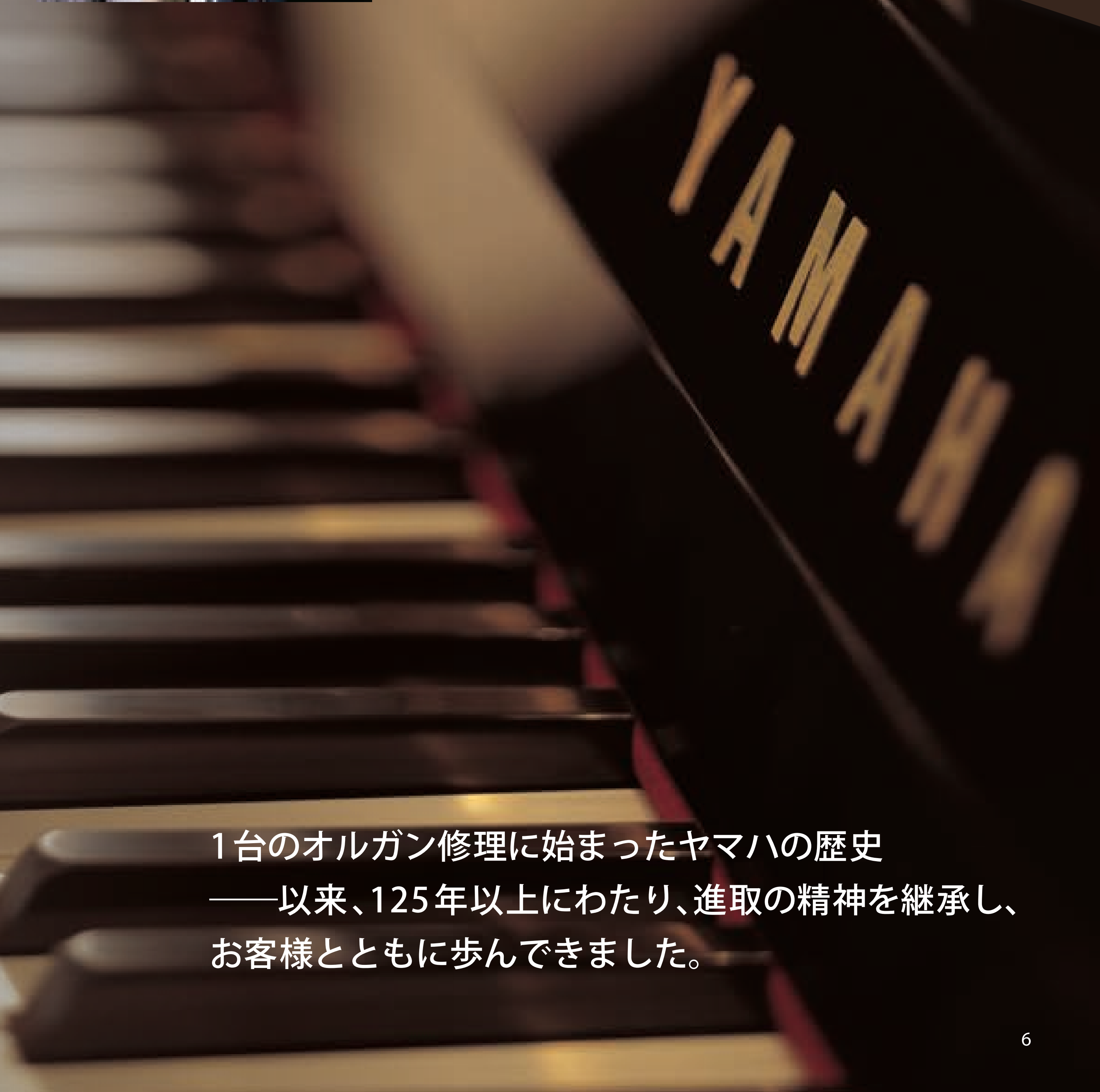
現在ヤマハグループは、初心者用からプロ用、アコースティックからデジタルまで、多彩なラインアップの楽器を生産し、世界中に販売しています。1954年にスタートしたヤマハ音楽教室は、世界の40以上の国と地域の人々に音楽の楽しみを伝え、その輪を広げています。さらに、楽器の生産・販売で培った技術やノウハウは、音響機器、音楽ソフト、半導体、ゴルフ用品、FA機器、リゾート事業などにも生かされ、世界でも類のない豊かなライフスタイルを提案するメーカーへと発展を遂げました。

私たちヤマハグループは、これからも「音・音楽」を原点に培った技術と感性を磨きながら、世界中の人々に新たな感動と豊かな文化を創りつづけていきます。









1台のオルガン修理に始まったヤマハの歴史
——以来、125年以上にわたり、進取の精神を継承し、
お客様とともに歩んできました。

ヤマハの企業理念

ヤマハグループでは、「感動を・ともに・創る」を企業目的として理念体系の最上位に掲げ、最も大切にする概念と位置づけています。また、それぞれのステークホルダーに対しての経営理念を明確に表現し、ヤマハグループ全体で共有しています。ヤマハグループは、「お客様」「株主」「ともに働く人々」「社会」それぞれのステークホルダーの満足度を高めつつ、経営資源を有効に活用して持続的な発展を実現することを通じ、企業価値の最大化に向け努力しています。

YAMAHA

企業目的

「感動を・ともに・創る」

ヤマハグループは
音・音楽を原点に培った技術と感性で
新たな感動と豊かな文化を
世界の人々とともに創りつづけます

経営理念

顧客主義・高品質主義に立った経営
（お客様に対して）
お客様の心からの満足のために、
先進と伝統の技術、そして豊かな感性と創造性で、
優れた品質の価値ある商品・サービスを提供し続けます。

健全かつ透明な経営
（株主に対して）
健全な業績を確保し
適正な成果の還元を継続するとともに、
透明で質の高い経営による永続的な発展を図ります。

人重視の経営
（ともに働く人々に対して）
ヤマハに関わりを持って働く全ての人々が
一人ひとりの個性や創造性を尊重し合い、
業務を通じて自己実現できる企業風土づくりを目指します。

社会と調和した経営
（社会に対して）
高い倫理性をもって法律を遵守するとともに、
環境保護に努め、良き企業市民として、
社会・文化・経済の発展に貢献します。

音叉マークに込められた意味

3本の音叉※でヤマハの「技術」「製造」「販売」の3部門の強い協力体制を表すとともに、音叉に象徴される音・音楽を中心に世界（外円）に伸びゆくヤマハのたくましい生命力を表しています。
また、音楽の基本である「メロディー」「ハーモニー」「リズム」の調和という意味も込められています。

※音叉：主に鋼鉄で作られたU字型の棒の中央に柄をつけたもので、音の高さを合わせる調律などに使用する道具



ヤマハは、豊かな感性と創造性で
お客様が心から満足できる新たな価値をお届けします。

顧客主義・高品質主義を貫き、時代をリードする
テーマを提案することで、社会・文化に貢献し続ける
――これが「ヤマハが目指す姿」です。



ヤマハの経営ビジョン

「信頼と憧れのブランド」となる

ヤマハは、お客様の期待を超える製品・サービスを
提供し続けることで、ブランド価値をさらに高め
お客様に選ばれる「信頼と憧れのブランド」を目指します。

「音・音楽」をコアとする

ヤマハグループの原点である「音・音楽」。
そのエキスパートとして専門力に磨きをかけ、
新たな「音・音楽」の開拓に挑戦していきます。

「モノ」と「コト」の両輪で成長する

ヤマハは、「モノ」事業と「コト」事業のシナジーを追求しながら、
お客様の豊かなライフスタイルの実現に貢献する
新たな価値を生み出していきます。



2CELLOS

クロアチア出身の若きチェリスト、ルカ・スーリッチ、ステファン・ハウザーによるデュオ。さまざまな音楽ジャンルの枠を超えてチェロの新境地を切り拓き、センセーショナルな成功を収めています。彼らがライブ活動を始めるにあたり唯一無二の楽器として選んだのが、ヤマハのサイレントチェロ™でした。

ヤマハの事業領域

ヤマハの保有する技術やノウハウは、「木材・金属加工技術」、「デジタル信号処理&ネットワーク技術」、「コンテンツ制作&施設運営ノウハウ」の３つに分類できます。それらに、長年培ってきた「音・音楽」というエッセンスが掛け合わさりヤマハ独自の「コア・コンピタンス*」が形成されています。事業領域は、「アコースティック楽器事業」、「エレクトロニクス事業」、「教育・余暇事業」、「産業用部品・機械事業」の４つに区分しています。それぞれの事業領域で、既存事業の着実な成長と新たな事業の開発を図り、コア・コンピタンスを最大限に活用し、シナジー効果の創出にも力を入れていきます。

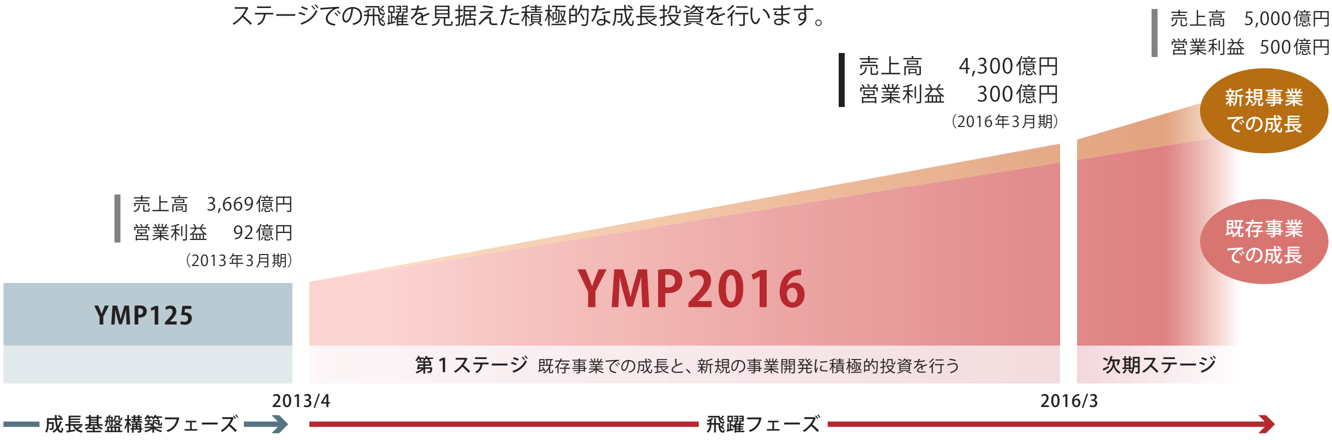
＊コア・コンピタンス：技術、スキル、ノウハウ、資産、ブランド



中期経営計画「Yamaha Management Plan 2016」

位置付け

ヤマハは、2013年4月に策定した3年間の中期経営計画「Yamaha Management Plan 2016」を飛躍フェーズの第1ステージと位置付け、既存事業での着実な成長を実現するとともに、次期ステージでの飛躍を見据えた積極的な成長投資を行います。



経営方針

1. 持続的な「成長の実現」
2. 成長を支える「収益力の強化」
3. 新たな付加価値を生み出す「専門性の向上」

重点事業戦略

ヤマハは、以下の４つのテーマを重点事業戦略として積極的に取り組みます。

1 中国・新興国における成長を加速します

中国・新興国での販売網を拡充するとともに、音楽普及活動を通じて楽器演奏人口を拡大します。

2 エレクトロニクス事業領域での売上の拡大を目指します

電子鍵盤楽器、業務用音響機器、ICT機器*で成長を実現します。

*ICT機器：Information and Communication Technology機器

3 コスト競争力を強化します

生産拠点の稼働率の向上と、原価低減活動により、コストダウンを進めます。

4 新規の事業を開発します

飛躍フェーズでの成長を加速するため、新規の事業を開発します。



ヤマハ音楽教室（インドネシア）



業務用音響機器



ピアノ工場（中国・杭州ヤマハ）

事業開発の取り組み

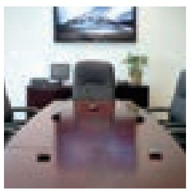
既存事業の業容拡大や新規事業による成長を実現するため、M&Aや資本提携も視野に入れた投資を進めています。2014年には米国の楽器・音響機器メーカーLine 6（ラインシックス）社、米国の通信・音響機器メーカーRevolabs（レボラブズ）社を完全子会社化しました。

ギター周辺機器、PA機器の商品ラインを拡大し、楽器・音響機器領域での成長を加速していきます。



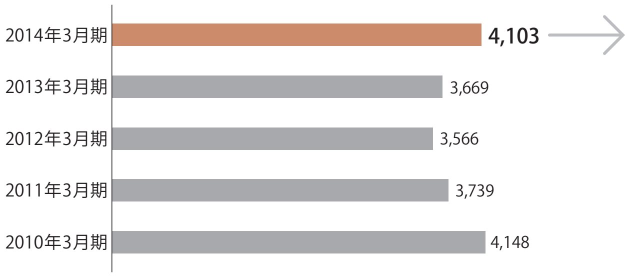
音声コミュニケーション機器と業務用音響機器の両面から、企業向け設備音響ビジネスのさらなる成長を目指します。



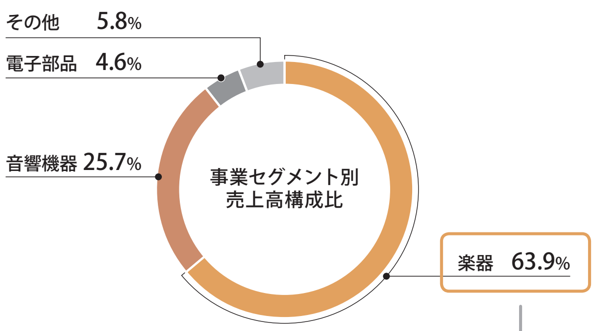


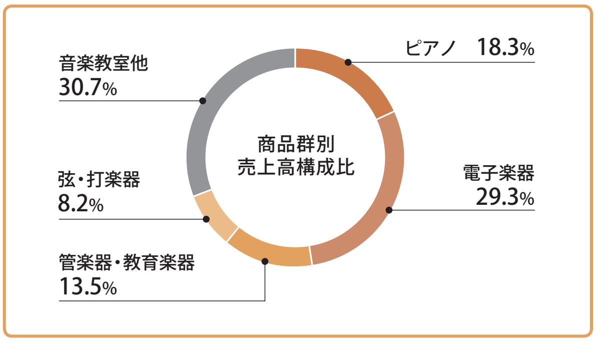
連結業績概要

売上高（億円）

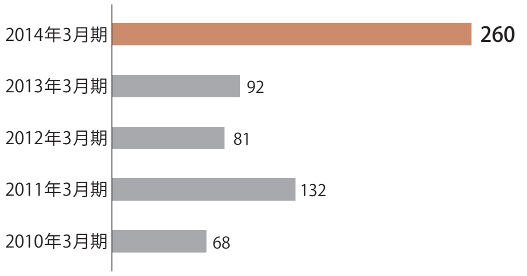


〔2014年3月期売上高（4,103億円）の内訳〕

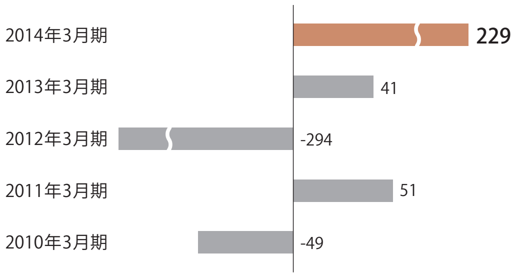




営業利益（億円）



当期純利益（損失）（億円）

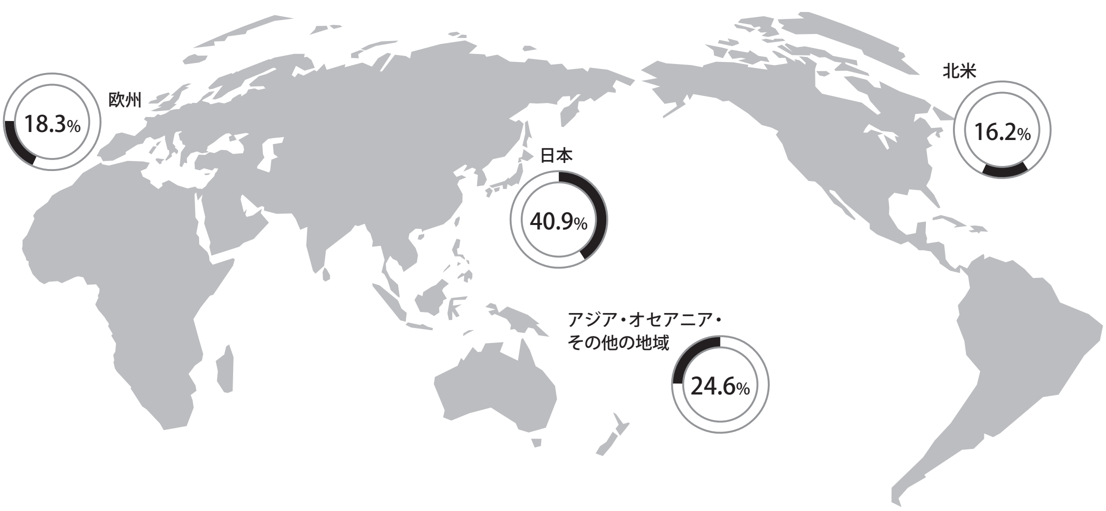


中期経営計画「Yamaha Management Plan 2016」
（2013年4月～2016年3月）

2016年3月期の目標

- 売上高 4,300億円
  3年間の実質成長率 +14%
- 設備投資額 460億円
  （3年間の累計）
- 営業利益 300億円
  営業利益率 7%
- フリー・キャッシュ・フロー 500億円
  （3年間の累計）
- ROE（株主資本利益率） 10%

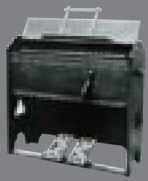
地域別売上高構成比



沿革

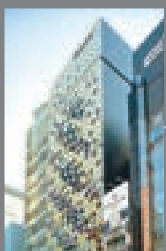


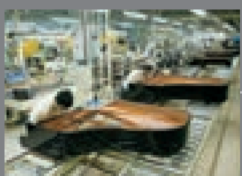
創業者　山葉寅楠







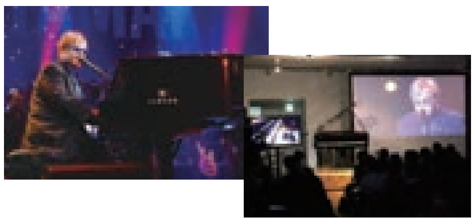




1887	山葉寅楠が浜松尋常小学校（現元城小学校）でオルガンを修理、同年11月にオルガン製作に成功
1889	当社の前身である合資会社山葉風琴製造所を設立
1897	日本楽器製造（株）を資本金10万円にて設立
1900	ピアノの製造を開始
1949	東京証券取引所に株式を上場
1954	オルガンの教室を開講（ヤマハ音楽教室の前身）
	オーディオの製造を開始（HiFiプレーヤー）／オートバイの製造を開始
1955	オートバイ部門をヤマハ発動機（株）として分離
1958	スポーツ用品の製造を開始（FRP製アーチェリー）
	メキシコに最初の海外法人 ヤマハ・デ・メヒコを設立
1959	電子オルガン（エレクトーン®）の製造を開始
1960	米国に最初の販売子会社 ヤマハ・インターナショナル・コーポレーション（現ヤマハ・コーポレーション・オブ・アメリカ）を設立
1962	リゾート事業を開始
1964	リビング用品の製造を開始（FRP製バスタブ）※2010年リビング事業子会社の株式を譲渡
1965	管楽器の製造を開始
1966	財団法人ヤマハ音楽振興会を発足（2011年、一般財団法人に移行）
	西ドイツ（当時）に販売子会社 ヤマハ・ヨーロッパを設立
1968	日本初の株式時価発行を実施
1971	半導体の生産を開始
1987	創業100周年を機に、社名を日本楽器製造（株）からヤマハ（株）に変更
	ヤマハ英語教室を開始
1989	中国に電子楽器製造・販売子会社 天津ヤマハ電子楽器を設立
2002	中国に投資管理会社 ヤマハ楽器音響（中国）を設立／ドイツに欧州統括会社 ヤマハ・ミュージック・ホールディングス・ヨーロッパ（現ヤマハ・ミュージック・ヨーロッパ）を設立
2005	ドイツの音楽制作用コンピューターソフトウェア開発・販売会社 Steinberg（スタインバーグ）社を買収
2007	音楽ソフト事業統括会社（株）ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングスを設立
2008	オーストリアのピアノメーカー Bösendorfer（ベーゼンドルファー）社を買収
	フランスの業務用スピーカー製造・販売会社 Nexo（ネキソ）社を買収
2010	ヤマハ銀座ビルをリニューアルオープン／ピアノ国内生産拠点を掛川工場へ統合
2012	管楽器国内生産拠点を豊岡工場へ統合
	創業125周年
2013	国内の楽器・音響機器卸販売および教室事業を行う（株）ヤマハミュージックジャパンを設立
2014	米国の楽器・音響機器メーカー Line 6（ラインシックス）社を買収
	米国の通信・音響機器メーカー Revolabs（レボラブズ）社を買収
	国内における楽器・音響機器の生産事業を製造子会社3社に承継（（株）ヤマハピアノ製造、（株）ヤマハミュージカルプロダクツ、（株）ヤマハミュージックエレクトロニクス）

創業125周年記念コンサート　～RemoteLive™（リモートライブ）により世界へ同時配信～

2013年1月、125周年記念コンサートが米国で開催され、スペシャルゲストとして出演したElton John（エルトン ジョン）のピアノ弾き語りによる演奏が、ヤマハのRemoteLive※技術により世界11カ国23会場に同時配信されました。各会場に置かれた自動演奏機能付きアコースティックピアノDisklavier™（ディスクラビア）が、Elton Johnが弾くピアノの鍵盤やペダルの動きなどのデータを受け取り、音色を正確に再現することで、来場者に生のピアノ演奏をお届けしました。



※RemoteLive：実際に演奏を行っている会場からインターネットを介して、映像・音声・演奏情報を同時に複数の拠点に配信する技術

事業紹介

楽器事業

　ヤマハグループの主力事業である楽器事業では、125年を超える歴史と実績によって培われた熟練技能に裏付けられたピアノ・管楽器などのアコースティック楽器、先進的なデジタル技術を駆使した付加価値の高い電子楽器、そして、これらの技術の融合により生まれたハイブリッド楽器など、ヤマハならではの多彩なラインアップを提供しています。初心者からプロフェッショナルまで多様な音楽愛好家から高い評価を得ているこれらの製品は、アーティストの協力を得ながら進めてきた有機的な研究開発や、世界各国の販売現地法人による地域に根ざした営業・サービス活動などによって支えられています。

ピアノ



コンサートグランドピアノ
CFX®



ハイブリッドピアノ
AvantGrand® N3

電子楽器

- 電子ピアノ
- 電子オルガン（エレクトーン®）
- ポータブルキーボード
- シンセサイザー
- 電子ドラム etc.



電子ピアノ
Clavinova® CLP-585



エレクトーン
STAGEA® ELS-02C（カスタムモデル）



シンセサイザー
MOTIF® XF7

管楽器

- トランペット
- フルート
- クラリネット
- サクソフォン etc.



カスタムトランペット
Xeno® YTR-8335RS



カスタムアルトサクソフォン
YAS-875EX



カスタムクラリネット
YCL-SEVmaster

弦楽器

- ギター
- バイオリン etc.



アコースティックギター
LL36 ARE



エレキベース
TRBX504



バイオリン
Artida® YVN500S



サイレント
バイオリン™
SV250



ギターアンプ
THR10

防音室



アビテックス®
CEFINE® Ⅱ ev ボックスタイプ

教育楽器

- リコーダー
- 鍵盤ハーモニカ（ピアニカ®）etc.



ピアニカ
P-32D



リコーダー
YRS-61

打楽器

- ドラム
- ティンパニ
- マリンバ etc.



コンサートマリンバ
YM-6100



アコースティックドラム
LIVE CUSTOM®

音楽教室・英語教室

ヤマハグループは、世界の40以上の国と地域において、幼児から大人まで幅広い生徒を対象に音楽教室を展開しています。ヤマハ音楽教室を通じて、60年にわたり音楽演奏人口の拡大や音楽文化の普及・啓蒙に努めています。



ヤマハ音楽教室「幼児科」



ヤマハ大人の音楽レッスン

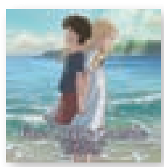
音楽ソフト

- 楽譜・書籍出版事業
- 音楽出版事業
- レコード事業
- プロダクション事業
- 音楽配信事業 etc.

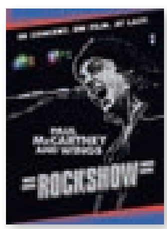
ミュージックエンタテインメント事業は、アーティストの発掘からマネジメント、原盤制作、著作権の管理・開発、音楽・映像ソフトの制作・販売、楽譜・書籍出版、コンテンツ配信など多岐にわたり展開しています。



楽譜



CD



DVD/BD

音響機器事業

音響機器事業は、AV機器、業務用音響機器、業務用通信カラオケ、ネットワーク機器、音声コミュニケーション機器などで構成されています。AV機器の分野では、「音・音楽」を極めたヤマハの感性と先進的なデジタル技術を融合し、デジタル・サウンド・プロジェクターなどのホームシアターシステムやAVアンプ、HiFiオーディオ、デスクトップオーディオなどを取りそろえ、多彩な音楽の楽しみ方を提案しています。デジタル・ネットワーク技術を生かした業務用音響機器の分野では、世界の著名なホール、劇場、コンサート会場などに導入されているだけでなく、店舗、会議場などの商業空間に向けた音のトータルソリューションも提案しています。一方、ソフトウェア技術とシームレスに融合した音楽制作機器は、音楽をつくる楽しみを身近にし、より表現力豊かな音楽制作を可能にしています。ルーターをはじめとしたネットワーク機器は、中小規模の拠点を中心に多く採用されています。また、音声コミュニケーション機器では、Web会議用のマイクスピーカーが企業や学校などに広く普及しています。

AV機器

- ホームシアターシステム
- AVアンプ
- スピーカーシステム
- システムコンポ etc.



AVプリアンプ
AVENTAGE® CX-A5000



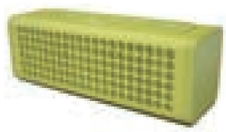
パワーアンプ
AVENTAGE® MX-A5000



スピーカー
Soavo® NS-F901



デジタル・サウンド・プロジェクター
YSP-2500



ポータブルワイヤレススピーカー
NX-P100

業務用音響機器

- ミキサー
- パワーアンプ
- PAシステム etc.

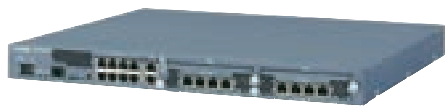


ポータブルPAシステム
STAGEPAS® 600i



デジタルミキシングコンソール
CL5

ネットワーク機器



ギガアクセスVPNルーター
RTX5000

音声コミュニケーション機器

- Web会議用マイクスピーカー



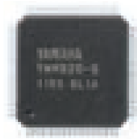
ユニファイドコミュニケーション
マイクスピーカーシステム
YVC-1000

電子部品事業

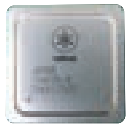
電子部品事業は、半導体を中心に構成されています。ヤマハの半導体は、電子楽器用音源LSI（大規模集積回路）の内製化からスタートしました。現在では、この楽器用LSIの開発を通して蓄積されたノウハウは、アミューズメント機器や車載、家電用の音源・画像LSIなど、ヤマハが得意とする音・音楽・画像を中心としたさまざまな分野で活躍する半導体製品の開発、提供へと発展しています。成長著しいスマートフォンやタブレットPCなどのモバイル機器に向けては、方位検知に用いる地磁気センサーも幅広く採用されています。また最近では、eVocaloid™とリアルアコースティック音源を内蔵した次世代音源LSI YMW820を提供しています。

半導体

- オーディオコーデック、デジタルアンプ
- 地磁気センサー
- アミューズメント機器用音源・画像LSI
- 車載、家電用音源・画像LSI
- 次世代音源LSI



次世代音源LSI
YMW820



アミューズメント機器用画像LSI
YGV635



スマートフォン用3軸地磁気センサー
YAS537

その他の事業

その他の事業は、ゴルフ用品事業、自動車用内装部品（カーパーツ）事業、FA（Factory Automation）機器事業と、リゾート事業で構成されています。ゴルフ用品事業、自動車用内装部品事業、FA機器事業では、ヤマハが楽器の製造を通じて蓄積した生産技術により他社との差別化を図り、信頼性の高い製品を提供しています。リゾート事業では、豊かな自然の中で音楽やスポーツを楽しめ、乗馬倶楽部やアーチェリー競技場を有する「つま恋」をはじめとし、ヤマハレディースオープン葛城を開催する「葛城ゴルフ倶楽部」と、その宿泊施設であり重厚な和風建築からなる「葛城北の丸」の3施設を運営しています。

ゴルフ用品



ゴルフクラブ
inpres RMX®01ドライバー

自動車用内装部品



天然木材の魅力を生かしたウッドパネル

FA機器



プリント基板検査装置
MR502

リゾート施設

- つま恋®
- 葛城北の丸®
- 葛城ゴルフ倶楽部®



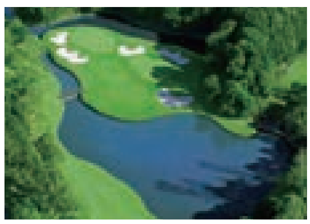
つま恋



つま恋 乗馬倶楽部



葛城北の丸

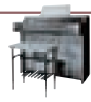
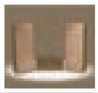


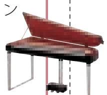
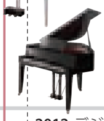
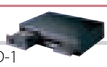
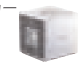
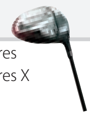
葛城ゴルフ倶楽部

製品と技術の歴史

	1887	1900	1950	1960
ピアノ	1887 オルガン 木材技術／木工加工 塗装／化学技術／塗装	1900 アップライトピアノ 1902 グランドピアノ 木材人工乾燥 音響技術 1947 ピアノフレームの鋳造開始 鋳造		1967 コンサートグランドピアノ CFシリーズ
管・教育楽器		1914 ハーモニカ		1965 トランペット 金管加工 1967 サクソフォン他
弦楽器		1941 ギター 木工加工 塗装		1966 エレキギター
打楽器		1915 木琴		1966 ドラム エアバッグ成形
電子楽器		エレクトロニクス技術	音源技術 1959 エレクトーン D-1 アナログ方式	1969 ボーカルアンプシステム VA-120
PA機器				
AV機器		1922 高級手巻蓄音機 塗装 木工加工	1954 HiFiプレーヤー HiFiオーディオ スピーカー技術	1967 NSスピーカー 分轄振動型平面スピーカー
半導体				高集積化技術
情報通信機器				
音楽ソフトほか		1921 外国製楽器、楽譜輸入販売		
その他				1961 鉄・アルミ合金／銅チタン合金 1962 鉄ニッケル(パーマロイ)合金 (〜2007) パーマロイ
教室／イベント			音楽 1954 音楽教室の始まり 音楽教室	1965 海外初の音楽教室開設(米国) 1967 全日本ライトミュージックコンテスト開催(〜1971) 1969 作曲コンクール開催 (後のポプコン)(〜1986) イベント
リビング		1903 高級木製家具 木工加工 塗装 素材開発		1964 FRP製バスタブ FRP成形
スポーツ用品			1959 FRP製アーチェリー(〜2002) FRP成形	1961 FRP製スキー(〜1997) FRP成形
リゾート				1964 鳥羽国際ホテルオープン (2007譲渡) 1967 合歓の郷オープン(2007譲渡) イベント・余暇
ヤマハ発動機	木工加工	1921 木製プロペラ 1931 金属製プロペラ 金属技術／金属加工	メカトロニクス技術／エンジン 1954 オートバイ試作車 (後にヤマハ発動機へ移管)	1960 FRP製ボート FRP成形




1970	1980	1990	2000	2010
	1982 ピアノプレーヤー （海外：1987 Disklavier） 自動演奏技術	1991 コンサートグランドピアノ CFⅢS 1993 サイレントピアノ 消音技術 1995 サイレントアンサンブルピアノ 1995 ハイブリッドピアノ GranTouch ハイブリッド・ピアノ技術		2010 コンサートグランドピアノ CFX 
1973 ピアニカ		1990 Xeno シリーズ 1995 サイレントブラスシステム 消音技術		
	1983 エレクトリック・アコースティックギター	1997 サイレントバイオリン 	2000 アコースティックバイオリン Braviol 2001 サイレントギター 2008 アコースティックギター L36ARE、L26AREシリーズ 木材改質処理	2011 ギターアンプ THR VCMテクノロジー 
	1986 電子ドラム PMC1	1996 サイレントセッションドラム		2010 電子ドラム DTX900シリーズ TCSドラムヘッド 
1974 シンセサイザー CSY-1 1975 エレクトーン GX-1  ポリフォニック デジタル技術	1980 ポータブルキーボード 1983 デジタルシンセサイザー DX7  FM音源 1983 電子ピアノ クラビノーバ 1987 ウインドMIDIコントローラー WX7	1993 バーチャル・アコースティック・シンセサイザー VLシリーズ  物理モデル音源	PCM音源 2001 ミュージックプロダクションシンセサイザー MOTIF 2002 イージーギター EZ-EG 2004 エレクトーン STAGEA 2006 電子ピアノ MODUS H01 2008 TENORI-ON 2009 ハイブリッドピアノ AvantGrand 2009 ステージピアノ CP1 VACM音源  	
1974 ミキシングコンソール PM-1000 アナログミキサー	1985 DSPエフェクター SPX90 デジタル・エフェクト 	1994 デジタルミキシングコンソール ProMix 01 デジタルミキサー	2000 プロフェッショナルオーディオワークステーション AW4416 オーディオワークステーション 2001 デジタルオーディオミキシングシステム PM1D 2008 ポケットレコーダー POCKETRAK CX	2012 デジタルミキシングコンソールCLシリーズ Centralogic VCMテクノロジー 
1974 高級アンプ B-1 Power-FET 1974 ベリリウム振動板スピーカー NS-1000M  ベリリウム振動板スピーカー 1975 ヘッドフォン	1982 CDプレーヤー CD-1 1986 デジタル・サウンドフィールド・プロセッサー DSP-1 DSP 1988 YST（ヤマハ・アクティブ・サーボテクノロジー）搭載スピーカー AST-1 YST	1995 シアターサウンドシステム シアターサラウンド	2004 デジタル・サウンド・プロジェクター YSP-1  ビーム制御スピーカー 2006 SR-Bass搭載スピーカー NX-A01  SR-Bass	2010 AVENTAGE AVレシーバー シネマ DSP HD3  2010 イヤホン
1972 エレクトーン用音源LSI 楽器用LSI	1983 FM音源用LSI 1983 グラフィックLSI PCゲーム用LSI	1999 携帯電話用音源LSI 携帯電話用LSI	2002 デジタルアンプLSI デジタルアンプLSI 2005 磁気センサー GMR 技術	
情報処理技術 信号処理技術	1983 MSXパソコン コンピュータ	1993 CDレコーダー（〜2003） 1993 通信カラオケ 通信カラオケ 1995 リモートルーター ルーター	2006 IP音声会議システム 電話会議 心理音響技術	2011 スピーチプライバシーシステム VSP-1  サウンドマスキング 2011 TLFスピーカー  静電型スピーカー 2011 スマートL2スイッチ 2012 音響通信技術 INFOSOUND 音響通信技術 2013 無線LANアクセスポイント
1974 コンピュータによる建築音響シミュレーション 建築音響	1986 家庭向け音楽専用室 SRS（音楽室） 1989 防音室 AVITECS 防音室		ネットサービス 2000 着信メロディ配信サービス 2000 電子楽譜配信サービス DTM 2003 歌声合成ソフト VOCALOID 歌声合成技術 2009 インタラクティブミュージックプレーヤー BODiBEAT	2010 調音パネル TCH 音場制御  2010 iVOCALOID（iPhone、iPad版VOCALOID）
	1984 産業用ロボット ロボット 1989 自動車内装部品 自動車内装木目部品	1991 薄膜磁気ヘッド（〜2000） 蒸着式薄膜成形 1997 マグネシウム成形部品（〜2010） マグネシウム鋳造		
1972 ジュニアオリジナルコンサート開催	1986 ポピュラーミュージックスクールスタート 1987 英語教室スタート 英語教室 1987 Teens' Music Festival開催（〜2006） イベント		楽器レンタル 2003 楽器レンタルシステムスタート 2005 中国音楽教室展開 2006 ミュージックレッスンオンラインスタート オンラインレッスン 2007 Music Revolution開催 イベント	
1975 システム家具（〜2005） 1976 システムキッチン 1977 人工大理石カウンターニューマーブル 人工大理石	1982 システムバス		2002 マーブルシンク搭載システムキッチン マーブルシンク	*リビング事業譲渡（2010）*
1973 テニスラケット（〜1997）	1982 ゴルフクラブ 1986 カーボンコンポジット・ゴルフクラブ アキュラスシリーズ カーボンコンポジット	チタン鍛造	2002 ゴルフクラブ inpres 2005 ゴルフクラブ inpres X 	
1974 つま恋オープン 1976 葛城ゴルフ倶楽部オープン 1978 葛城北の丸オープン 1979 はいむるぶしオープン（2007譲渡） イベント・余暇		1991 キロロオープン（2007譲渡）		
1974 FRP製プール FRP成形		1994 電動ハイブリッド自転車PAS	2002 エレクトリックコミューター	

「音・音楽」をコアに、ヤマハならではの技術を開発し、新たな音楽の楽しみ方を提案していきます。

ヤマハは長い歴史の中で、世界中のアーティストや音楽愛好家と常に対話し、より良い製品・サービスの提供に努めてきました。世代を超えて受け継がれた熟練技能や音づくりへの感性を根底に、アコースティック楽器製造の過程で独自の技術を積み重ねてきました。さらに1970年代からは、最高の電子楽器を目指し、それまではアナログ方式だった音源のデジタル化に他社に先駆けて着手。FM音源を搭載した80年代を代表するシンセサイザーDX7などの画期的な製品を生み出してきました。また、音響機器の分野では、エレクトロニクス技術の開発と応用により、最先端のPA機器・AV機器を提供してきました。

長年にわたり培ってきたアコースティック製品における技術と、それをベースに積み上げてきたエレクトロニクスの技術 —— その両方を駆使し融合することで、ヤマハにしか生み出すことのできない新しい価値、新しい音楽の楽しみ方を提案していくことこそが、ヤマハの研究開発の使命だと考えています。

ヤマハのコア技術

楽器における技術

ヤマハは、楽器を通じてより豊かな音をお客様に届けるために、木材・金属など素材の加工をはじめ、鍵盤・アクションのメカニズム、音源や音響に関連する技術の研究を重ねてきました。

● 木材改質技術
A.R.E.® (Acoustic Resonance Enhancement)

A.R.E.は、短期間で木材を熟成させるヤマハ独自の木材改質技術です。温度、湿度、気圧を高精度でコントロールする専用の装置で処理することで、新しい木材をまるで長年使いこまれた楽器のような深みのある音が出る木材へと変化させます。バイオリンやアコースティックギターなどの木製楽器や、楽器の振動が伝わりやすいホールステージなどに採用されています。



A.R.E.処理を施した木材で作られたバイオリン Artida®（アルティーダ） YVN500S

● アコースティック楽器における振動・音響解析の研究

アコースティック楽器の形状や構造、素材などの設計要素は、音色に多大な影響を与えます。ヤマハではより良い音の実現のために、楽器のそれぞれの部分がどのように振動し、またその影響により楽器内部や周辺の空気がどのように振動し音が伝わっているかなどの解析を、測定技術やシミュレーション技術を駆使しながら進めています。



ギターの表板における振動の解析結果

● 金管楽器用消音システム サイレントブラス™

サイレントブラスは、ピックアップミュート™（消音器）と、パーソナルスタジオ™（ヘッドフォンアンプ）からなる消音システムです。性能はそのままにピックアップミュートを小型・軽量化し、心地よい響きを実現するヤマハの信号処理技術Brass Resonance Modeling™をパーソナルスタジオに搭載。独自の最新技術を組み合わせることで、場所を選ばずに演奏を楽しむことを可能にしました。



最新技術により生まれ変わったサイレントブラス SB7X（トランペット用）

音響機器における技術

AV機器やPA機器、ネットワーク機器などにおいては、デジタル信号処理やネットワークの技術を核とした最先端のエレクトロニクス技術を駆使し、付加価値の高い製品を提供しています。

● 流体音制御技術 TWISTED FLARE PORT™（ツイステッドフレアポート）

バスレフ型スピーカーの低音再生においては、"風切り音"と呼ばれるノイズの発生を制御することが課題でした。ヤマハが開発したTWISTED FLARE PORTは、流体音解析および流体可視化計測技術を用いてノイズ発生メカニズムを特定し、制御する流体音制御技術です。この技術により、よりノイズが少ないクリアで豊かな低音の再生が可能になりました。



TWISTED FLARE PORT（左）を採用したサブウーファー NS-SW300（右）

● バーチャルサラウンド技術 AIR SURROUND XTREME™（エアサラウンドエクストリーム）

バーチャルサラウンドの臨場感を追求し、長年にわたる解析の成果に基づく頭部伝達関数を用いたAIR SURROUND XTREME技術を生み出しました。この画期的な技術により、フロントスピーカーだけでマルチチャンネル・サラウンドに匹敵する明確な定位感と高音質なサラウンド音声を実現しています。





ワンボディで高音質な7.1chサラウンド音場を再現するフロントサラウンドシステム YAS-103

● モデリング技術 VCM (Virtual Circuitry Modeling) テクノロジー

ヤマハは、アナログ機器の持つサウンドの深みを再現するために、世界トップレベルの機器の回路を素子レベルから正確にモデリングする技術VCMテクノロジーを開発しました。また、この技術を応用したエフェクトプログラムVCMエフェクトは音楽的な温かみのあるサウンドを可能にすることから、ヤマハのデジタルミキサーや電子楽器に搭載されています。



デジタルミキシングコンソールCLシリーズは高品質なVCMエフェクトを多数搭載

コア技術の融合

技術を有機的に結合することで新たな価値を生み出す

ヤマハは、世界最大の総合楽器メーカーとして幅広い領域の製品を手掛けるなかで、世界中の人々が良い音、良い音楽を楽しめるよう、最高の技術を追求してきました。その結果として生み出された技術を有機的に結合させ掛け合わせることにより、新たな価値の創造に努めています。ヤマハならではの魅力品質を持った製品・サービスを通じて、お客様に驚きと感動をお届けすること――これがヤマハの使命です。



AvantGrand N2（左）、N3（右）

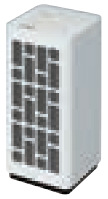
● ハイブリッドピアノ AvantGrand®（アバングランド）

アコースティックピアノと電子ピアノを融合させたハイブリッドピアノ AvantGrand。ヤマハの持つ設計・製造技術の粋を集めて作られたAvantGrandは、ピアノユーザーが抱える設置スペースや周囲への音の問題を解決しながら、繊細なタッチ感やペダルフィーリング、豊かな音の響きなどグランドピアノの演奏感を実現しました。

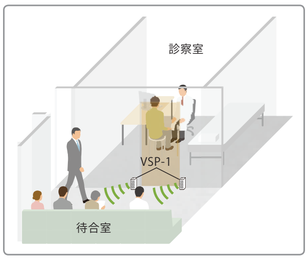
新規事業への取り組み

● スピーチプライバシーシステム

ヤマハは、人の話し声を素材に合成した「情報マスキング音」により会話内容をカモフラージュする技術を開発。この技術を使用したスピーチプライバシーシステムは、音量で会話をかき消す従来のノイズ方式よりも小音量で高い効果が発揮でき、医療施設やオフィスなどのスピーチプライバシーを守り快適な音空間を提供します。



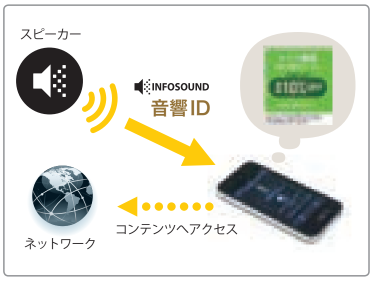
スピーチプライバシーシステム VSP-1。「情報マスキング音」に「環境音」や楽器音などの「演出音」を組み合わせることで、心地よい音空間を提供



病院での設置例

● INFOSOUND™（インフォサウンド）

INFOSOUNDとは、音にデジタルデータ（音響ID）を組み込んで情報を発信する技術で、人間にはほとんど聞こえない音でデータの伝送を行うことができます。電波ではなく音を使うため、市販のスピーカーを利用して、URLや画像などの伝えにくい情報のデータをスマートフォンなどに簡単に配信することが可能です。また、QRコードなどの通信技術は1対1の通信を基本とするのに対し、INFOSOUNDはその音の届く範囲に対して情報を配信できることから、ライブハウスやイベントスペースなどにおいて広い対象に向けての送信に利用できます。



● VOCALOID™（ボーカロイド）

VOCALOIDはヤマハが開発した、歌詞とメロディーを入力するだけで歌声を作り出すことができる歌声合成技術およびその応用ソフトウェアです。パソコン用やiPad/iPhone※用など、さまざまなプラットフォームに対応したVOCALOIDアプリケーションを展開しています。会員制クラウドサービスのボカロネットでは、自動作曲技術 VOCALODUCER™や楽曲データを共有できるボカロストレージを提供しています。

※iPad/iPhoneは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。



Steinberg社の音楽制作ソフトウェアに対応した VOCALOID Editor for Cubase



VOCALOID応用ソフトウェア 初音ミク※ V3

※「初音ミク」はクリプトン・フューチャー・メディア株式会社の登録商標です。

© Crypton Future Media, INC.

● 即レコ™

「即レコ24®」は、アマチュアの演奏者が利用する一般的な音楽リハーサルスタジオにて、タブレット端末による簡単な操作で本格的な24チャンネルのレコーディングが行えるサービスです。録音した高音質な音源をクラウド上にアップロードし、パソコンやスマートフォンを通じて共有できます。また、「即レコ24」をもとに開発された「即レコ Air®」は、吹奏楽や合唱の練習・指導に適したサービスで、持ち運びできるコンパクトな機材によって、学校の部室や体育館などに高音質な2チャンネルの録音環境を簡単に構築できます。

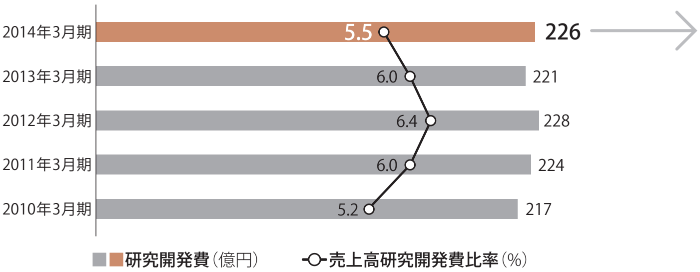


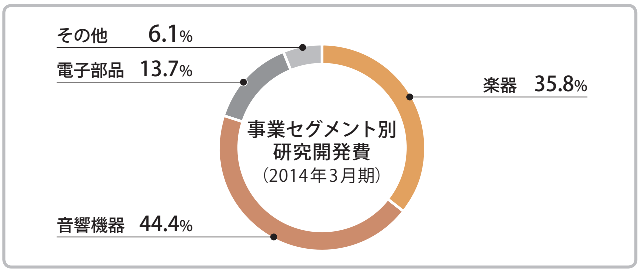
即レコ24のリハーサルスタジオでの使用イメージ



コンパクトな設計の即レコAir

研究開発費





ヤマハWebサイト「研究開発」：http://research.yamaha.com/

価値あるヤマハの知的財産権を戦略的かつ継続的に獲得し、活用していきます。

ヤマハグループでは、創業者の山葉寅楠自ら多くの発明を行い特許を取得するなど、創業以来、自社の知的財産を保護するとともに第三者の知的財産権を尊重すべく、事業活動と連携した知的財産の管理に取り組んできました。長年の研究開発や事業活動によって蓄積された技術的なアイデア、デザイン、ブランドや著作物といった重要な知的財産を特許権・意匠権・商標権・著作権等により適切に保護・活用し続けることで、事業収益への貢献を図っています。

特許については、事業セグメントごとにその特性に合わせた特許戦略を策定し、強い特許網構築の実現を目指して活動しています。また意匠や著作物についても、重要な知的財産として法的措置の実施を含め適正な管理・活用に努めています。

さらにヤマハブランドの価値を維持・向上させるために、1986年にヤマハブランドの管理規程を制定し、全社的な管理組織の下、世界各国でさまざまな商品分野での商標権の取得を進めるほか、模倣品対策も積極的に実施しています。

大切な発明を知的財産権で網羅的に保護しています。

新たな音楽文化の創造につながる発明
〜VOCALOID™（ボーカロイド）に搭載する歌唱音声合成技術〜

ヤマハは、2000年からポンペウ・ファブラ大学との共同研究を通して、個性豊かで自然な歌唱音声合成の技術を開発し、2003年に発表しました。本技術は、録音した実際の人間の声から音声素片と呼ばれるさまざまな声の断片を切り出して歌唱ライブラリーとしてデータベース化し、この音声素片を周波数領域で接続し加工することで歌声を合成するものです。これにより、ユーザーはパソコンの画面で歌詞とメロディー（楽譜情報）を入力するだけで、楽曲のボーカルパートを制作することができるようになりました。

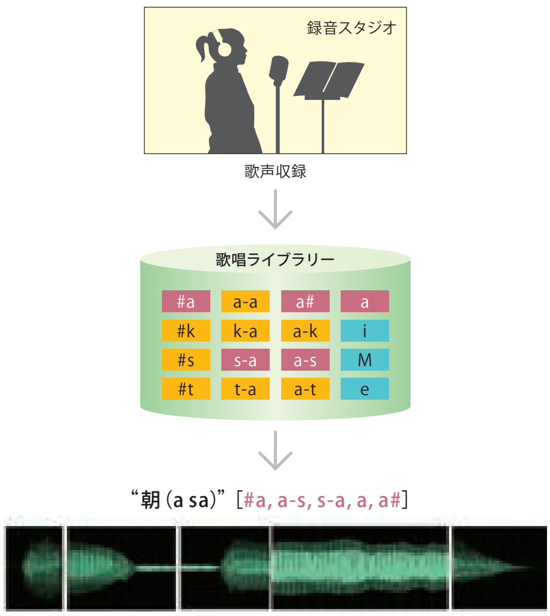
同技術は、ヤマハのソフトウェアVOCALOIDやヤマハがライセンスしたソフトウェアに搭載されています。これらのユーザーが制作した楽曲は、ニコニコ動画やYouTubeなどの動画サイトに多数発表され、大きく注目されています。また日本語をはじめ、英語その他の複数の言語で展開され、楽器を演奏しない方に対しても作曲への門戸を開くとともに、VOCALOIDを用いて制作された楽曲を聴いて楽しむという、新たな音楽文化の創造に寄与しています。

ヤマハでは、VOCALOIDの開発の過程で生まれた新たな技術やネーミングを知的財産権で網羅的に保護しています。現在、同技術に関わる特許を約190件、商標については約80件、国内外で出願しています。

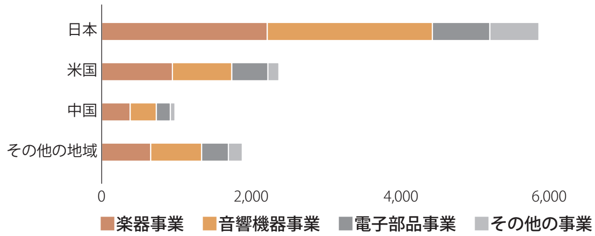
また、この技術に関する発明のうち、日本国特許第4153220号が公益社団法人発明協会主催の「平成25年度全国発明表彰」第一表彰区分の「日本弁理士会会長賞」を受賞しました。全国発明表彰は、わが国の科学技術の振興および産業経済の発展に大きく貢献していると認められたものに与えられています。この発明は、音声素片を伸ばし音部分と遷移部分に分けたうえで、できるだけ遷移部分の歌声を元の状態に保ちつつ、主に伸ばし音部分を加工・生成することで個性を残しながらも自然な歌声の合成を可能にする点がポイントになっています。

VOCALOID™の仕組み

実際の歌手から取り出された音声の素片を周波数領域で接続し加工することで歌声を合成



特許保有状況（件）
（2014年3月末現在）



ヤマハのデザインは、5つの「デザイン理念」を基本にヤマハらしさを追求し、製品の優位性、新規性、独自性を表現しています。

ヤマハのすべての製品デザインには、創業100周年の1987年に制定した5つの「デザイン理念」が息づいています。これは、多彩な商品群に一貫したポリシーと独自の魅力を付与し､広く世の中に発信し続けていくための礎となる考え方です。時代の流れに呼応したブラッシュアップを経て、いつの時代も変わることなく、一つひとつの商品デザインに込められています。

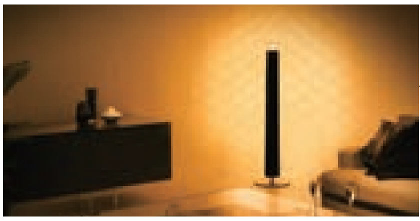
デザイン理念（Design Philosophy）

INTEGRITY 「本質を押さえたデザイン」

突飛に見えても、よくよく考えると理にかなっている。そんな考え方に出会ったとき、人は『本質を突いている』と感じます。本質を押さえたデザインとは、道具や文化、そして人間に対する深い理解と、独自の視点があって初めて見いだすことができるものなのです。



サイレントブラス™ SB7X



ライティングオーディオシステム Relit™ LSX-700

INNOVATIVE 「革新的なデザイン」

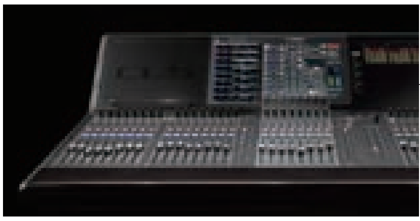
楽器のように深く文化に根ざし長い歴史を持つ伝統的な道具は、その進化が保守的になりがちです。しかし伝統的なものも、誕生した当時は『常識はずれ』と言われたことでしょう。伝統を尊重し、伝統を守るということは、常に新たな可能性に挑戦し続けることでもあります。

AESTHETIC 「美しいデザイン」

たとえば工芸品的な美しさ､あるいは現代的な美。演奏者の視点から見える奏者をインスパイアする存在感。オーディエンスを魅了し憧れの対象となる美しさ。空間における凛としたたたずまい。素材のハーモニー。形のリズム。激しさと静けさ、線と面、色、量感と重心。私たちはあらゆる角度から「美」を探求します。



クラビノーバ® CLP-585



デジタルミキシングコンソール CL5

UNOBTRUSIVE 「でしゃばらないデザイン」

主役は常に人です。したがって必要以上に楽器や機器がでしゃばるデザインは避けるべきだと考えます。また流行を追った過剰なデザイン表現も適切ではありません。なぜなら楽器や機器は使う人の創造力によって完成する道具、いわば『完成度の高い、半完成品』。長い間使い続けても飽きがこないデザインこそが、私たちが追求すべきものです。

SOCIAL RESPONSIBILITY 「社会責任を果たすデザイン」

使い込むことで､より価値が増すもの。永く愛用され､やがて手放せなくなる人生の伴侶のような存在。それが、私たちが目指すデザインです。また多様な価値観を持つ人々が、年齢、性別、国籍、能力の違いを超え、お互いの個性を認め合って共生する『感動を・ともに・創る』社会を実現するデザインであるべきだと考えています。



エレクトリックアコースティックギター AC3M

「今の時代の感動」を追求するグラフィックコンテストを開催

ともに「ヤマハ」ブランドを使用し､「感動」を企業理念のキーワードとするヤマハ（株）とヤマハ発動機（株）は、総合的なグラフィック作品のコンテストを2012年より開催しています。デザインを重視する両社は、グラフィックコンテストの開催を通じて、若手のクリエイター・アーティストの発掘・育成に寄与するとともに、「ヤマハブランド」の価値向上を図っています。2014年からは「Graphic Design Award by Yamaha」としてグローバルに展開を広げ、世界中から募った作品を通して、より多くの人や社会との「感動」の共有を目指していきます。



2013年表彰式にて、グランプリ受賞者を囲んで

社会への責任と貢献

「音・音楽」に関わる製品・サービスの提供や
さまざまな活動を通じて、より良い社会づくりに貢献します。

ヤマハグループは、経営理念に「顧客主義・高品質主義に立った経営」「健全かつ透明な経営」「人重視の経営」「社会と調和した経営」を掲げ、お客様、株主、ともに働く人々、社会などさまざまなステークホルダーとのコミュニケーションを深めながら、企業市民の一員としての責任を継続的に果たしています。

ヤマハグループが推進するCSR経営の特長は、事業を通じて音楽文化の発展と豊かな社会づくりに貢献することであると考えています。また、ヤマハグループがグローバルに事業を展開する上での基盤となる、それぞれの地域社会が抱える課題や、温暖化、生物多様性といった地球規模の課題に対して貢献することも重要な課題だと認識しています。

2010年2月には「ヤマハグループCSR方針」を制定し、さらに2011年6月、国連が提唱する企業の自主行動原則「グローバル・コンパクト」の主旨に賛同し、署名を行いました。今後も、ヤマハグループは、これらの方針・原則に基づき、社会への責任と貢献についてグループ全体でより認識を高め、社会的な諸課題に取り組んでいきます。

ヤマハグループCSR方針

「感動を・ともに・創る」をめざして

**ヤマハグループは、音、音楽を原点に培った技術と感性で、
新たな感動と豊かな文化を世界の人々とともに創りつづけることを企業目的としています。
この企業目的に基づき、企業活動を通じてステークホルダーの皆様の信頼をより確かなものにするとともに、
社会の持続的発展に貢献するために、以下に掲げる指針に沿って、CSR活動を推進します。**

1. 音楽を志す人、楽しむ人を幅広く支援し、音・音楽文化の普及と発展に貢献します。
2. 環境保護、生物多様性維持の意義を理解し、環境負荷の軽減、適正な木材活用と森林保護活動などを推進し、健全な地球環境維持に努めます。
3. 社会の一員である「企業市民」として、地域社会・文化の発展に資するさまざまな活動に積極的に参加し、よりよい社会づくりに貢献します。
4. 法律、社会倫理規範を遵守し、働く人々が感性・創造性を十分に発揮できる環境整備に努め、より良い商品・サービスを提供できる企業風土づくりをめざします。
5. 企業活動を資金面から支えてくださる株主の皆様に対し、経営情報開示と積極的・持続的なコミュニケーションを行い、透明性の高い経営をめざします。また、お取引先様とは、公正かつ透明な取引を基本とし、相互理解を深め、良好な信頼関係の構築に努めます。

国連グローバル・コンパクト

グローバル・コンパクトとは、1999年に国連事務総長が提唱した「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野にわたる10の自主行動原則であり、賛同する企業は、自社の影響の及ぶ範囲で10原則を遵守することをトップ自らが宣言し、その実現に向けて努力し続けます。ヤマハでは、2011年6月に署名して以来、2012年から2年間、グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークへの専任者派遣を行ったほか、分科会運営などの協力も行っています。

THE GLOBAL COMPACT
Network Japan
WE SUPPORT

音楽を志す人、楽しむ人の活動を支援しています。

「音・音楽」を事業の中核に据えるヤマハグループは、本業で培った豊かな感性と創造性や、技術、ノウハウを生かして、人々の音楽文化の発展と豊かな社会づくりに貢献したいと考えています。多くの方が音楽に親しみ、楽しむことのできる機会の創出や支援、また音楽を通じた街や地域コミュニティー活性化への取り組みなど、さまざまなシーンで「感動を・ともに・創る」の実現を目指して活動しています。

全国各地で音楽の街づくりを支援

ヤマハは、「音楽の街づくりプロジェクト（おとまち®）」を全国各地で展開しています。同プロジェクトでは、音楽の持つ"人と人とを繋げる力"を活用し、「持続可能なコミュニティーづくり」としてコンサルティングしています。街づくりに取り組む企業、自治体などに対し、事業マスタープランの作成、市民参加型プログラムのプロデュースなど、音・音楽を通じて、地域の価値を高める街づくりの取り組みに貢献しています。市民音楽祭への参加や市民参加型の「ビッグバンド養成講座」などのプログラム、ワークショップや、コミュニティーバンド、市民オーケストラの結成のプロデュースなど、多くの活動に協力、協働しています。

また、ヤマハは、毎年、浜松市などと共催で「ハママツ・ジャズ・ウィーク」を開催しています。世代を問わず楽しめる多彩なプログラムを提供しており、第22回となる2013年は、世界的アーティストや中・高校生ビッグバンドのコンサート、市民団体や地域のジャズクラブと連携したイベントなどを開催しました。ヤマハはこのイベントを通じて、浜松市が推進する、音楽を中核にした都市づくりに協力しています。



街づくりの一環として、地域に根ざしたレディース・ビッグバンドの養成を企画・サポート



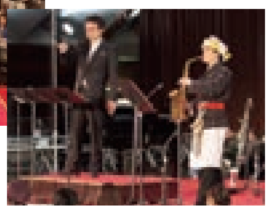
第22回ハママツ・ジャズ・ウィーク最終日
世界で活躍するミュージシャンが出演した「ヤマハ ジャズ フェスティバル イン 浜松2013」

「ブラス・ジャンボリー」で「みんなで楽しむブラスの一日」を

ヤマハグループは"演奏する楽しみ"を原点に、管楽器の愛好者が大きな会場で一堂に会して合奏を楽しむコンサートイベント「ブラス・ジャンボリー」を開催しています。当日会場で初めて顔を合わせる参加者同士が、全員で大合奏を行うものです。小学生から70代までの幅広い世代が全国から集い、毎年500人規模で実施しています。本イベントは、気軽に演奏を楽しみたい人々に演奏の場を提供し、かつての経験者や楽器を始めたばかりの初心者、親子やファミリー、仲間同士での参加など、すべての管楽器の愛好者を対象に「みんなで楽しむブラスの一日」を目指して企画しています。



「ブラス・ジャンボリー2014」



日本最大規模の音楽コンテスト「Music Revolution®」

ヤマハグループは、これまで「ポピュラーソングコンテスト」（1969年〜1986年）、「ティーンズ・ミュージック・フェスティバル」（1987年〜2006年）といったさまざまな音楽イベントを通し、アマチュアミュージシャンに音楽を発表する場を提供してきました。

2007年には、23歳以下のアマチュアミュージシャンであれば誰でも参加できる日本最大規模の音楽コンテスト「Music Revolution」（ミュージックレボリューション）をスタートしました。2014年1月に開催された7回目となる当コンテストの全国大会「ジャパンファイナル」では、各地区予選大会を勝ち抜いた14組の若きミュージシャンによる演奏が披露されました。また、青少年の健全な音楽活動の支援を目的とする同コンテストは、「ジャパンファイナル」で文部科学省の後援を受けており、そのグランプリ受賞者には文部科学大臣賞があわせて授与されます。



「第7回 Music Revolution
ジャパンファイナル」



事業活動において、環境に配慮した取り組みを推進しています。

「ヤマハグループ環境方針」に基づき、グループ全体で推進

ヤマハグループは「ヤマハグループ環境方針」のもと、一丸となって環境経営を推進するとともに、従業員一人ひとりが健全な地球環境を守るための活動に取り組んでいます。

ISO14001に加えて、2013年より、国内外のヤマハグループ全体に適用する「ヤマハグループ環境マネジメントシステム」を導入し、事業活動に伴う環境負荷の削減に努め、生産活動における省エネルギー・化学物質管理などにも取り組んでいます。

地球温暖化対策では、生産方法や各種設備の配置、運転方法の改善・最適化、エネルギー管理の徹底、コージェネレーションシステムの導入などにより、2014年3月期（国内）のCO_2排出量は、1991年3月期比で45%の削減となりました。

杭州ヤマハ楽器（中国）では、生産増に伴うエネルギー使用量抑制の取り組みを、2012年より強化しています。集塵機の運転管理強化、給水稼働時間の短縮や照明の適正配置、点灯時間削減などにより、エネルギー使用効率を2011年以上に維持しています。

また、従業員の家庭における取り組み（ヤマハ・ヤマハ労働組合共催）が評価され、ヤマハ労働組合が、日本労働組合総連合会より「連合エコ大賞2013」の最優秀賞を受賞しました。



コージェネレーションシステム（掛川工場）



杭州ヤマハ楽器の集塵設備

木材を使った製品を提供する企業として、森林の再生支援に取り組んでいます。

インドネシア植林活動「ヤマハの森」第2期活動

ヤマハとインドネシアの現地法人6社は、2005年よりインドネシアでの植林活動「ヤマハの森」を展開しています。

インドネシアにおける生物多様性の保全、森林機能の回復のため、これまでに西ジャワ州スカブミ県内に約11万本の苗木を植え、第2期活動（2010～2014年）となる現在、同クニンガン県のチレメイ山国立公園内の荒廃した土地への植林を行っています。活動の一環として、毎年地域の方々と一緒に植林イベントを開催し、森林保全への理解を深めています。同活動は第1期から数えて今年（2014年）で10年目となり、植林したエリアでは順調に森の形成が進んでいます。



現地住民や小学生、ヤマハグループ関係者などによるインドネシア「ヤマハの森」植林イベント

慈善活動・災害復興支援に積極的に取り組んでいます。

従業員による自発的な慈善活動

ヤマハ・コーポレーション・オブ・アメリカ（YCA）では、従業員が暮らし、働くコミュニティへの貢献を目指す自発的な慈善活動「ヤマハ・ケアーズ」を2005年に発足し、音楽のもたらす喜びを広げていく活動を中心に、教育・芸術・福祉・地域活性などをテーマとした慈善活動に積極的に取り組んでいます。

ヤマハ・ケアーズでは、従業員自らがレースに参加して募金を呼びかける南カリフォルニア・ハーフマラソンでの募金活動で、若年層の疾病に対する取り組みへの支援を継続的に行っています。そのほか、知的発達障害を持つ人々へのスポーツ振興を推進するスペシャルオリンピックや、地域の子どもたちが集う放課後スクール、アメリカがん協会、その他難病とたたかう子どもたち、恵まれない方たちへ支援を行う団体などへの募金活動や自社製品の寄付などの活動を行っています。



スペシャルオリンピック（南カリフォルニア）でボランティアを行うYCAヤマハ・ケアーズのメンバー

音楽と楽器の楽しさで復興を支援

ヤマハグループは、2011年7月「音楽と楽器の力で、こどもたちに笑顔を」をテーマに全国楽器協会が音楽家の坂本龍一さんとともに立ち上げたプロジェクト「こどもの音楽再生基金 School Music Revival」の活動へ、積極的に協力しています。

東日本大震災で被災した地域の幼稚園・小・中・高校に対し学校楽器備品の点検、修理支援を行う第一次活動が終了し、第二次活動として幼稚園、小学校での音楽鑑賞教室の開催など、音楽と楽器の楽しさを体感できるイベントを開催しています。

2013年8月には、津波の被害を受けた宮城県名取市で、2回目の「School Music Revival Live」を開催し、300名を超える東北3県の高校生が若さあふれるステージを披露しました。また2014年8月には、3年計画で立ち上げたこどもの音楽再生基金の締めくくりのイベントとなる、第3回「School Music Revival Live」が仙台市で開催されます。



東北3県の高校生と、ゼネラルプロデューサー坂本龍一さんが共演した「School Music Revival Live」

地域社会の活性化や文化・教育の発展に協力しています。

「ヤマハレディースオープン葛城」をヤマハ発動機と共同で開催

ヤマハとヤマハ発動機は、2008年より一般社団法人日本女子プロゴルフ協会公認トーナメント「ヤマハレディースオープン葛城」を共同で開催しています。両社は、トーナメント開催により、スポーツ・文化の振興や地域活性化への貢献とともに、多くの人々に「感動」を体感してもらいたいと願っています。開催にあたっては、地域の方々を中心とした多くのボランティアスタッフに協力いただいています。大会後には、静岡県や近隣の自治体へ寄付を贈呈しており、2014年までの6回で総額3,500万円を寄贈しました。

※2011年は東日本大震災の影響で中止



「ヤマハレディースオープン葛城2014」
ボランティアスタッフと、優勝したアン・ソンジュ選手

ヤマハ吹奏楽団による地域貢献

1961年に創部したヤマハ吹奏楽団は、定期演奏会やヤマハ野球部の応援、国内外の公演やコンクール出場などの定期活動のほか、地域貢献としての演奏活動にも取り組んでいます。

2013年には、浜松まつり「吹奏楽パレード」への参加、地元小学校の創立記念式典での演奏や、地元浜松市の中・高生を対象としたワークショップを開催しました。また、東日本大震災における被災地支援、復興支援活動にも積極的に取り組み、被災地でのチャリティコンサートの開催や募金活動を行っています。



浜松市内の小学校の記念式典での訪問演奏

ヤマハ野球部　少年野球チーム「野球教室」の開催

1958年に創部したヤマハ野球部は、静岡県唯一の企業チームとして、浜松市をはじめ地域社会からも大きな期待が寄せられています。また、スポーツを通じた地域貢献・青少年育成支援として、静岡県内の少年野球チームへの野球教室を定期的に開催し、子どもたちに野球の楽しさを伝えています。この教室は、ピッチングや守備、打撃の基礎についてヤマハ野球部員が手本を示しながら指導するもので、これまでに39回の実績があります。昨年は5回の開催で、合計86チーム1,281名が参加しました。

ヤマハ野球部は、これからも少年野球教室を通じて、子どもたちの夢や成長を応援していきます。



少年野球の練習を指導するヤマハ野球部員

従業員の多様性（ダイバーシティ）を尊重し、働きやすい環境づくりに努めます。

従業員の多様性を生かして企業競争力を高めていくことを共通の活動方針として、国内のヤマハグループ各社でダイバーシティ・マネジメント推進のための行動計画を策定しました。行動計画では2013年から2015年までの3年間を期間として、能力開発と活躍の場の拡大、グローバルでの人材活用の拡大、働きやすい環境づくり、風土の醸成の観点から、各社でさまざまな取り組みを推進しています。

ワークライフバランスの推進

ヤマハでは、働きやすい環境づくりの一環として、長年にわたり総労働時間短縮への取り組みを進めてきたほか、法施行に先立って1990年に育児休職制度を、1992年に介護休職制度を導入するなど、労使一体となって制度の充実に取り組んでいます。2006年には「ワークライフバランス推進委員会」を設置し、総労働時間の短縮や個々の従業員の多様な事情に対応可能な両立支援制度の構築・改善を図っています。2012年には、部門ごとにより効率的な働き方を実現するための実行計画「ワークライフアクションプラン」を策定・実行。2013年より第2期のアクションプランを実行しているほか、各部門のワークライフバランス部門推進責任者を対象とした研修を実施しました。

これらの取り組みにより、女性の育児休職取得率および育児休職後の復帰率が約100%、男性の育児休職者数は累計で42人となるなど、着実に成果が現れています。

子育てサポートしています
2008年認定事業主

次世代認定マーク「くるみん」



ダイバーシティ・ワークライフバランス情報を提供する社内サイト

ヤマハWebサイト「CSR/環境・社会活動」：http://jp.yamaha.com/about_yamaha/csr/

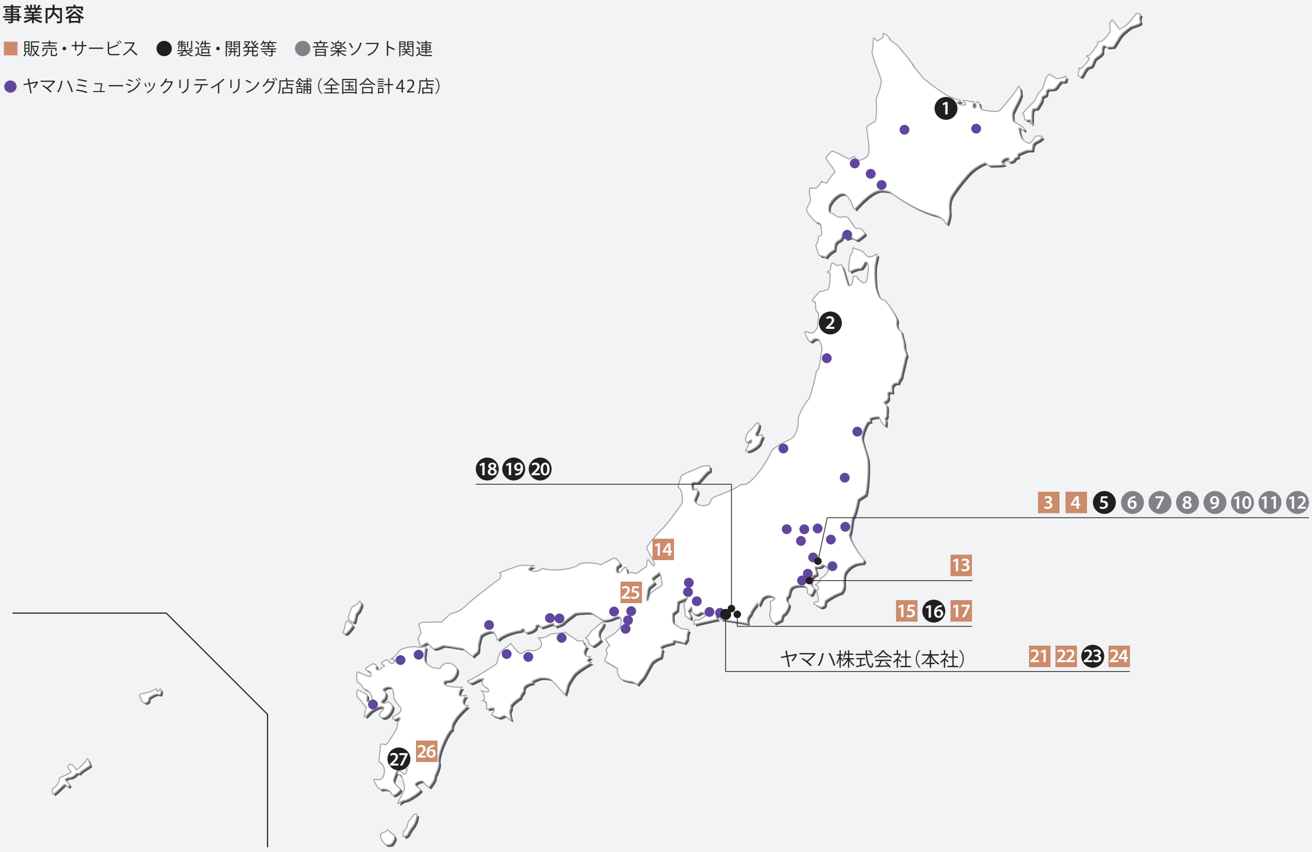
主要ネットワーク

国内ネットワーク （2014年7月1日現在）

事業内容

■ 販売・サービス　● 製造・開発等　● 音楽ソフト関連

● ヤマハミュージックリテイリング店舗（全国合計42店）



会社名	所在地
1 北見木材株式会社	北海道紋別郡
2 桜庭木材株式会社	秋田県北秋田市
3 株式会社ヤマハミュージックジャパン	東京都港区
4 株式会社ヤマハミュージックリテイリング	東京都港区
5 ヤマハサウンドシステム株式会社	東京都中央区
6 株式会社ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス	東京都渋谷区
7 株式会社ヤマハミュージックコミュニケーションズ	東京都渋谷区
8 株式会社ヤマハミュージックアーティスト	東京都渋谷区
9 株式会社ヤマハミュージックパブリッシング	東京都渋谷区
10 株式会社ヤマハミュージックアンドビジュアルズ	東京都渋谷区
11 株式会社ヤマハミュージックメディア	東京都豊島区
12 株式会社エピキュラス	東京都豊島区
13 Line 6 Japan株式会社	神奈川県横浜市
14 株式会社松木屋	福井県福井市

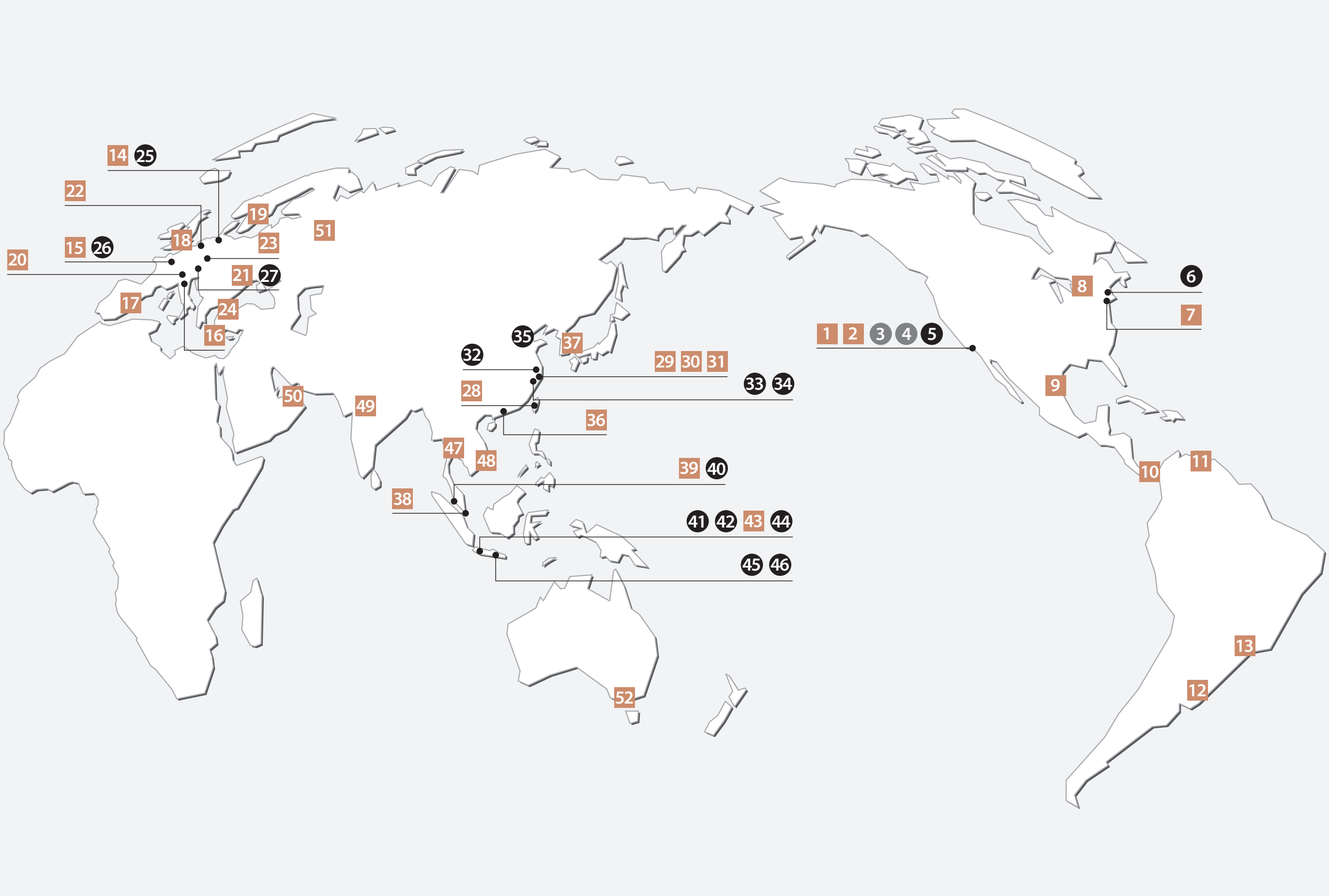
会社名	所在地
15 ヤマハピアノサービス株式会社	静岡県掛川市
16 株式会社ヤマハピアノ製造	静岡県掛川市
17 株式会社ヤマハリゾート	静岡県掛川市
18 株式会社ヤマハミュージカルプロダクツ	静岡県磐田市
19 株式会社ヤマハミュージックエレクトロニクス	静岡県磐田市
20 ヤマハハイテックデザイン株式会社	静岡県磐田市
21 株式会社ヤマハビジネスサポート	静岡県浜松市
22 株式会社ヤマハアイワークス *1	静岡県浜松市
23 ヤマハファインテック株式会社	静岡県浜松市
24 株式会社ヤマハトラベルサービス	静岡県浜松市
25 株式会社JEUGIA *2	京都府京都市
26 株式会社西村楽器	宮崎県宮崎市
27 ヤマハ鹿児島セミコンダクタ株式会社	鹿児島県姶良郡

*1　非連結子会社、関連会社
*2　持分法適用会社

「感動」を世界の人々にお届けする、ヤマハ株式会社 と ヤマハ発動機株式会社

ヤマハ株式会社（当時の日本楽器製造株式会社）の金属加工技術、メカトロニクス技術から生まれたオートバイ部門が分離独立し、1955年、ヤマハ発動機株式会社が誕生しました。両社の経営は互いに独立していますが、ともに掲げる「お客様とともに感動を創り、こころ豊かな生活を実現し、社会と文化に貢献する」という「ヤマハ」ブランドの使命を実現するため、ヤマハは音・音楽を、ヤマハ発動機は多様なパーソナルモビリティの提供を中心に、それぞれの事業活動を通じてさらなる成長を目指しています。

海外ネットワーク (2014年7月1日現在)

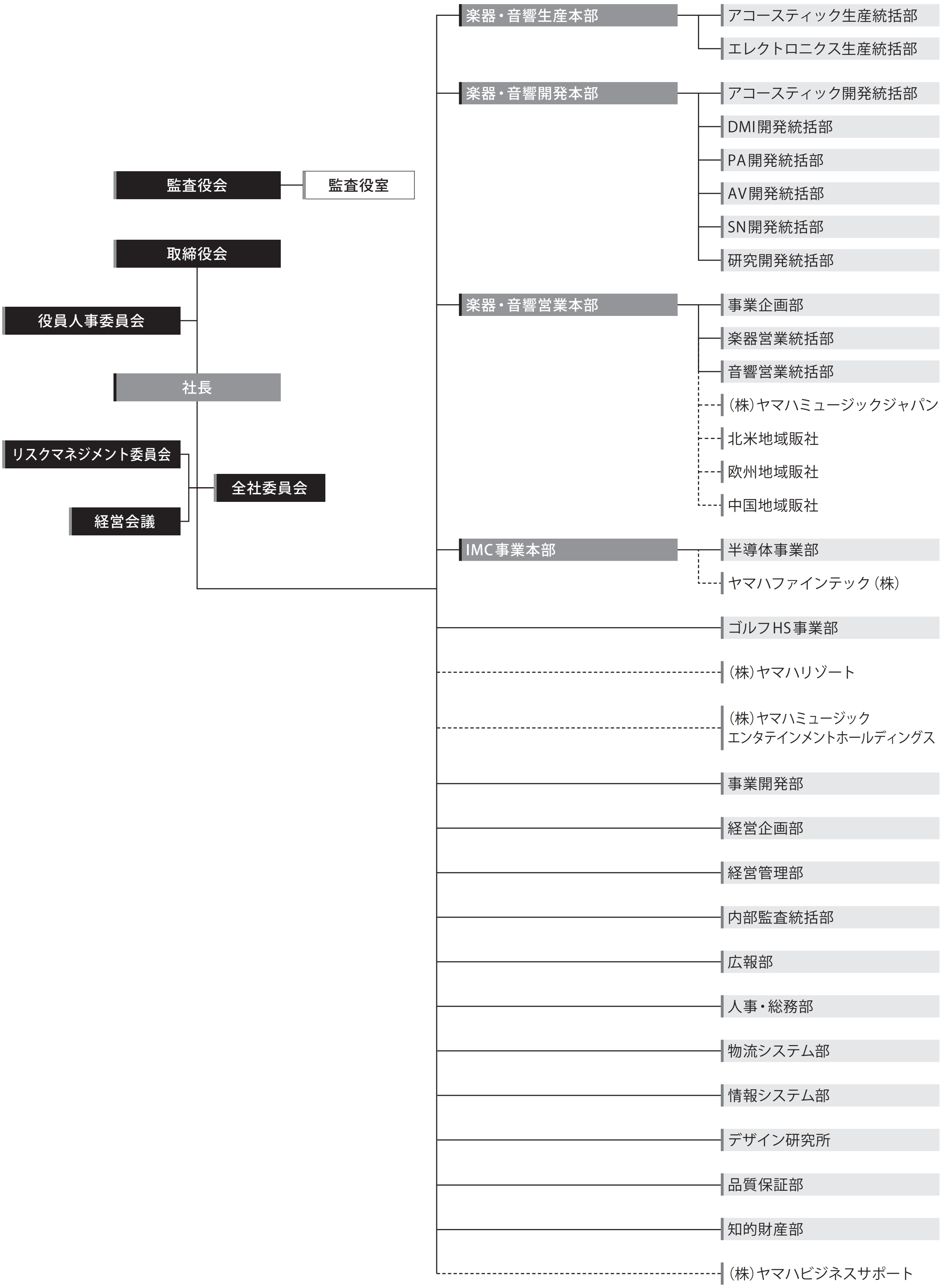


会社名	所在地
1 Yamaha Corporation of America	アメリカ・カリフォルニア
2 Yamaha Commercial Audio Systems, Inc.	アメリカ・カリフォルニア
3 Yamaha Music InterActive, Inc.	アメリカ・カリフォルニア
4 YMH Digital Music Publishing, LLC *2	アメリカ・カリフォルニア
5 Line 6, Inc.	アメリカ・カリフォルニア
6 Revolabs, Inc.	アメリカ・マサチューセッツ
7 Yamaha Artist Services, Inc.	アメリカ・ニューヨーク
8 Yamaha Canada Music Ltd.	カナダ・トロント
9 Yamaha de México, S.A. de C.V.	メキシコ・メキシコシティ
10 Yamaha Music Latin America, S.A.	パナマ
11 ベネズエラ支店	ベネズエラ・カラカス
12 アルゼンチン支店	アルゼンチン・ブエノスアイレス
13 Yamaha Musical do Brasil Ltda.	ブラジル・サンパウロ
14 Yamaha Music Europe GmbH	ドイツ・レリンゲン
15 フランス支店	フランス・クロワシーボーブール
16 イタリア支店	イタリア・ミラノ
17 イベリカ支店	スペイン・マドリード
18 UK支店	イギリス・ミルトンキーンズ
19 スカンジナビア支店	スウェーデン・ヨテボリ
20 スイス支店	スイス・チューリッヒ
21 オーストリア支店	オーストリア・ウィーン
22 ベネルクス支店	オランダ・ヴィアネン
23 ポーランド支店	ポーランド・ワルシャワ
24 トルコ支店	トルコ・イスタンブール
25 Steinberg Media Technologies GmbH	ドイツ・ハンブルク
26 Nexo S.A.	フランス・プレリー

会社名	所在地
27 L. Bösendorfer Klavierfabrik GmbH	オーストリア・ウィナノイシュタット
28 台湾山葉音楽股份有限公司	台湾・台北
29 雅馬哈楽器音響(中国)投資有限公司	中国・上海
30 雅馬哈楽器技術培訓(上海)有限公司	中国・上海
31 雅馬哈貿易(上海)有限公司	中国・上海
32 雅馬哈電子(蘇州)有限公司	中国・蘇州
33 蕭山雅馬哈楽器有限公司	中国・杭州
34 杭州雅馬哈楽器有限公司	中国・杭州
35 天津雅馬哈電子楽器有限公司	中国・天津
36 深圳雅馬哈楽器音響貿易有限公司 *1	中国・深圳
37 Yamaha Music Korea Ltd.	韓国・ソウル
38 Yamaha Music (Asia) Private Limited	シンガポール
39 Yamaha Music (Malaysia) Sdn. Bhd.	マレーシア・ペタリンジャヤ
40 Yamaha Electronics Manufacturing (M) Sdn Bhd	マレーシア・チモー
41 PT. Yamaha Indonesia	インドネシア・東ジャカルタ
42 PT. Yamaha Music Manufacturing Indonesia	インドネシア・東ジャカルタ
43 PT. Yamaha Musik Indonesia (Distributor)	インドネシア・中央ジャカルタ
44 PT. Yamaha Music Manufacturing Asia	インドネシア・ブカシ
45 PT. Yamaha Musical Products Indonesia	インドネシア・パスルアン
46 PT. Yamaha Electronics Manufacturing Indonesia	インドネシア・パスルアン
47 Siam Music Yamaha Co., Ltd. *1	タイ・バンコク
48 Yamaha Music Vietnam Company Limited *1	ベトナム・ホーチミン
49 Yamaha Music India Pvt. Ltd.	インド・グルガオン
50 Yamaha Music Gulf FZE	UAE・ドバイ
51 Yamaha Music (Russia) LLC.	ロシア・モスクワ
52 Yamaha Music Australia Pty. Ltd.	オーストラリア・メルボルン

会社情報

組織図（2014年7月1日現在）



会社概要 (2014年3月末現在)

会社名	ヤマハ株式会社
本社	静岡県浜松市中区中沢町10番1号
創業	1887年(明治20年)
設立	1897年(明治30年)10月12日
資本金	285億34百万円
連結売上高	4,103億4百万円
連結従業員数	19,851人 (ほか平均臨時雇用者数7,863人)
子会社数	77社(うち連結対象62社)
関連会社数	6社
決算期	3月31日
上場証券取引所	東京証券取引所　市場第一部 (証券コード7951)

Webサイト

http://jp.yamaha.com/



役員 (2014年7月1日現在)

取締役

代表取締役社長	中田　卓也
取締役	高橋　源樹
取締役	近藤　昌夫
取締役	大池　真人
取締役(社外)	喜多村　晴雄(公認会計士)
取締役(社外)	柳　弘之(ヤマハ発動機株式会社 代表取締役社長)
取締役(社外)	太田　義勝(コニカミノルタ株式会社 特別顧問)

監査役

常勤監査役	梅田　史生
常勤監査役	細井　正人
監査役(社外)	宮澤　孝司(公認会計士)
監査役(社外)	池田　裕彦(弁護士)

執行役員 (2014年7月1日現在)

常務執行役員	高橋　源樹	
上席執行役員	近藤　昌夫	楽器・音響生産本部長
上席執行役員	大池　真人	楽器・音響営業本部長
上席執行役員	長谷川　豊	楽器・音響開発本部長
執行役員	飯塚　朗	楽器・音響開発本部研究開発統括部長
執行役員	大澤　博史	楽器・音響営業本部音響営業統括部長
執行役員	佐々木　央	ヤマハ・ミュージック・ヨーロッパ社長
執行役員	小林　和徳	事業開発部長
執行役員	山畑　聡	経営企画部長
執行役員	藤井　茂樹	IMC事業本部長
執行役員	山口　静一	楽器・音響営業本部事業企画部長
執行役員	福留　斎	ヤマハ・コーポレーション・オブ・アメリカ社長
執行役員	鶴見　照彦	ヤマハ楽器音響(中国)総経理
執行役員	川瀬　忍	楽器・音響生産本部アコースティック生産統括部長
執行役員	伊藤　公保	楽器・音響開発本部アコースティック開発統括部長

地域別従業員数 (2014年3月末現在)



YAMAHA

感 動 を・と も に・創 る

ヤマハ株式会社

広報部

http://jp.yamaha.com/

2014年7月発行

– CM141